

北大病院心エコー室で検査を受けた患者さんへ(臨床研究に関する情報)

北海道大学大学院 心エコー検査室では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、患者さんの診療情報を用います。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号、令和4年3月10日一部改正)」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

[研究課題名] 超音波画像と人工知能技術を用いた肺高血圧症患者における右室機能推定と予後予測

[研究機関・長の氏名] 北海道大学病院 渥美 達也

[研究責任者名・所属] 加賀 早苗(超音波センター/保健科学研究院・副部長/准教授)

[研究の目的]

肺高血圧症において肺動脈圧が上昇すると、これが右心室にとっての負荷となり、右心室の機能の低下が起こります。右心室の機能が低下すると、心不全による入院や死亡する確率が高くなるため、右心室の機能の低下を正確に診断することはきわめて重要です。右心室の機能のもっとも正確な評価には、心臓MRI検査や心臓カテーテル検査が用いられますが、これらの検査法は少なからず侵襲を伴うため、すべての患者さんに対して繰り返し行うことはできません。したがって、日常の検査では、身体に負担を与えることなく実施することのできる心エコー図検査がよく用いられています。しかし、右心室は複雑な形をしているため、右心室の機能を正確に評価することは難しく、検査者の豊富な経験を必要とします。そこで、私たちは、人工知能技術を用いて、検査者の技術や経験に依存しない右心室の機能の自動診断法を確立したいと考えています。

[研究の方法]

●対象となる方

2020年4月から2030年3月までの間に、北海道大学病院に入院し、臨床目的に心臓MRI検査または心臓カテーテル検査が施行され、その前後1か月以内に心エコー図検査を受けた患者さん。

●利用するカルテ情報

1. 診療記録から、年齢、性別、身長、体重、診断名、病歴、家族歴、身体所見、血液生化学的検査結果、血漿中の脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)濃度、N末端プロB型ナトリウム利尿ペプチド(NT-proBNP)、臨床経過ならびに治療内容を調査させていただきます。
2. 入院中の心エコー図検査記録から一般的心エコー指標に関する情報を、心臓カテーテル検査記録から心内圧に関する情報を、また、心臓MRI検査記録から右室容積、心拍出量、右室駆出率、左室容積、左室駆出率、遅延造影の有無を調査させていただきます。

[研究実施期間]

病院長による実施許可日~2032年3月31日(登録締切日:2030年3月31日)

[個人情報の取り扱い]

この研究に関して、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

本研究の実施にあたり、研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、ご住所など、患者さんを特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果を学会や学術雑誌などに発表する予定ですが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

* 上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

[連絡先]

北海道札幌市北区北14条西5丁目

北海道大学病院 超音波センター / 保健科学研究所・副部長 / 准教授 加賀 早苗(研究責任者)

電話：011-706-5755 (心エコー室)